

小川集大君の 関西棋院八段取得を祝う

クラブコンコードだより

青木 敬

(学部5回)

以前「淡水」にクラブコンコードについて書いたことがあったが、随分日が経つので今一度ご紹介したい。

クラブコンコードは体育会有志が集い、体育会の基盤強化と相互協力を主目的に昭和28年に結成した。

そのメンバーは

木下 健 学4回 サッカー部

酒井 保 学5回 サッカー部

田中 利信 学5回 サッカー部

平成18年没

三木 仁郎 学5回 サッカー部

松岡 和生 学5回 サッカー部

青野 郁三 学5回 柔道部

昭和30年没

子安 実 学5回 柔道部

平成12年没

小川 集大 学6回 柔道部・山

岳部

宮崎 幸三 学5回 水泳部

荻阪 剛 学5回 硬式庭球部

青木 敬 学5回 硬式庭球部

以上11名(順不同)

3人を欠き8人の会となったが、
今でも毎年1回会食をする習いとな
っている。

今回は小川集大君の本年8月、関

西棋院八段取得を祝う会となった。

以下集大君を呼びなれた《しゅっし

ゃん》と呼ばしてもらおう。

《しゅっしゃん》は昔から何事にも

「凝り性」「極道」だった。誤解のな

いように、「道を極める」という意で

ある。

スキーに凝っては神鍋スキー場の

傍に山小屋を建ててしまおうし、ゴル

フに凝っては6コースのメンバーと

なり、最高年間70日、合計80ラウン

ドプレイの記録を持っている。

その、《しゅっしゃん》が学生の頃

から囲碁が強いということは知る人

ぞ知るところだが、いつの間にか素

人最高位の八段を取得するとは。

祝賀会当日、集合場所の彼の事務

所(神戸元町・六甲出版)に行くと、

なんと囲碁研究所の看板が掛かって

いる。部屋に入ると壁には、横長の

額に八段位の免状が。関西棋院理事

長の塩川正十郎や、NHK杯や天元

戦の王者結城聡九段など6、7名の

署名が並んでいる。

たいしたものやな。どうしたら八

段の免状が取れるんやと聞くと、

「俺も分からん」と言う。

好きこそ物の上手なれで、そこそ

こ碁を打っているとは思っていたが、

全く腑に落ちない。

「そないに君は強いのか、銭で買っ
たんと違うか」

と突っ込むと、

「俺はそない強くない。しかし、銭

で八段の免状はくれへんで」

「それではなんでや」

と聞くと、憎たらしそうに、

「人格と違うか」

と笑みを浮かべている

彼の囲碁暦について聞いてみると

次のようである。

囲碁の手習いは、小学校5、6年

のころ父からだった。井目で教えて

もらったことを覚えている。今にし

て思えば、父は多分四〜五級位だっ

たろう。1年か2年たって白黒が逆

転しそうになり、それから対局はし

なくなつた。

県商(今の星陵高校)では碁好き

な先生と宿直室で打った。授業中に

後で来いと言われ、随分とのんびり



小川 集大 八段

した時代だった。商大時代はため池のほとりや、柔道部の部室、時には教授室の横で伊賀先生と打ったのも懐かしい思い出。先生とは互い戦だったと思う。社会人に成りたては一級か二級、初段は無理だったろう。勤務先の近所や自宅近くの碁会所に良く通っていた。

昭和の後期に脳梗塞をやり、2年後にまた脳梗塞。ダメ押しに平成11年に狭心症。手術8時間。9月から翌年の1月まで入院。退院後、頭の体操のため読売新聞の段位認定問題に応募、10週の合計で日本棋院三段を取得。この頃に、碁打ちの方はご存知の西村修先生と知り合う。暫く



神戸元町「新愛園」にて祝宴

して五段となる。四段はなし。西村先生の指導と小生の本来の素質よろしきを得て、六段・七段となり、今回の八段位となった。

祝賀会は12月17日、元町の美味処「新愛園」。いつものように生存者8人全員が揃う。

「へしゅっしゃん」八段昇進おめでとう」と乾杯したまでは良いが、いつの間にか祝賀会か、同窓会か、忘年会か、わけの分からぬ盛り上がりの中に閉会となる。これもいつもの通り。昔と変わったのは、会食は昼が多くなり、二次会が無くなったことか。

機嫌よく別れたのは良いとして、この慶事を淡水の仲間にお知らせしなければ。

「へしゅっしゃん」の父君が「小さい川を集めて大河にするように」と名づけた子息、今では立派に小川集大となり父の期待に応えた。めでたし、めでたし。

今後はますます小川君の人格と技量で、囲碁を楽しむ人を増やし、碁界を広げてもらいたい。